2010年2月25日 北海道新聞 朝刊全道版 掲載

シリーズ24回目のテーマは《紙と循環型社会》

HOKKAIDO!ECO
地球のことを考えよう!
地球の"いま"と向き合い、"いま"に気付いて、"いま"から低いやりのある行動を
地球にやさしい・エコプロジェクト

地球環境ノート VOL.24

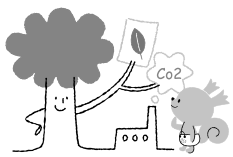
「北海道発・地球環境ノート」は、「持続可能な社会」を実現するために、地球温暖化防止に向けた温室効果ガス25%削減の取り組みをはじめ、今すぐ実践できる"地球にやさしい生活"をシリーズで幅広くお伝えします。

紙づくりの舞台裏では
リサイクルが徹底されていることを
ご存じでしたか?
エコロジ村のみんなといっしょに
紙と循環型社会について
考えてみましょう。

紙は循環型社会のトップランナーさ

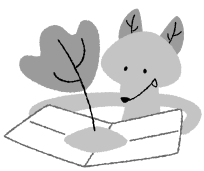
古新聞に紙パック
エコロジ村も
紙のリサイクルが
盛んなんだ
紙をつくる工場や森にも
リサイクルの工夫が
いっぱいだよ

-1- 森・エネルギー・紙 3つの環(わ)が大切なんだ



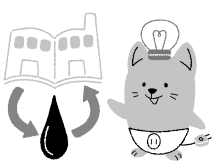
紙づくりは循環型産業です。「森」「エネルギー」「紙」を上手に循環させることで、資源を有効に活用しています。植林して森を育てることで紙の原料となる木材を収穫し、紙づくりの過程で生まれる副産物はエネルギーとして利用。このとき出るCO_2は、植林木が吸収。出来上がった紙は使用後また紙に再生する仕組みが確立されています。

-2- 森を育てることが紙づくりの第一歩さ



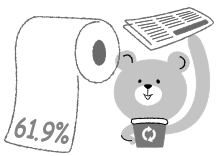
紙の原料となる木材は、持続的な森林経営によって安定生産が行われています。たとえば、ユーカリのように8年で大きくなる木は、土地を八つに分け、毎年違う場所に苗木を植えます。8年たった区画は収穫し、そこにまた植林することで木材を安定的に確保しているのです。森はCO_2の吸収源であることから、地球温暖化防止にも貢献しています。

-3- 紙をつくるエネルギーの4割以上がリサイクル型にゃのね



紙をつくる工場では、地球の資源を大切に守るために、省エネルギーと資源の有効利用を進めています。木材から紙の原料になる繊維を取り出すときに出る廃液「黒液」は、バイオマスエネルギー燃料として利用。このほか、廃材や廃タイヤなども活用しています。今ではこれらのエネルギーで全エネルギーの4割以上をまかなっています。※日本製紙連合会調べ(2009年度)

-4- 読みおわった新聞は捨てずにリサイクルだよ



古新聞や古雑誌、使用済みの段ボールなどを回収し、また紙に再生する仕組みを確立している日本。古紙回収率は75.1%、古紙利用率は61.9%で、どちらも世界トップクラスです(2008年実績)。これを支えているのが、紙をつくる側の技術開発と、紙を使う側の分別回収です。これからも循環型社会の一員として、分別回収に協力しましょう。

植林面積は東京ドーム13万個分

紙の原料・木材は、再生可能な資源。収穫後に植林するサイクルを循環させることで、持続的な森林経営を行うことができます。日本は紙の安定供給のために、世界各地で森を育てており、これまで植林した面積は、東京ドーム13万個分の広さに及びます。

●**地球温暖化防止にも貢献**

成長がほぼ停止している成木より、成長中の若木のほうが、CO_2の吸収能力が高いのはご存じですか。植林地には若木が豊富なため、温暖化の一因であるCO_2の削減に役立っています。

●**世界の森を守るために**

赤道を中心とした発展途上国では、森林の減少が起きています。生活をしていくために木材を燃料としたり、森林を焼き払って畑をつくっているためです。なかには違法伐採もあることから、日本は紙づくりに違法伐採された木材を使わない対策を講じています。

木を使うと森が減ってしまう。そう思っている人もいるじゃろうが、切ったあとにきちんと植えて育てたり、森の成長以上に木を切らなければ大丈夫。日本の製紙会社は、世界各国で森づくりをしているのさ。

村長さんの知恵袋

紙を使っても森は守れるんじゃよ

紙と森のかかわりや
CO_2吸収について、
もうちょっと考えてみよう

※参考資料 日本製紙連合会ウェブサイト

企画制作/北海道新聞社広告局 後援/環境省